

症候から診断へのアプローチ

Approach from symptom to diagnosis

シリーズ責任者：整形外科学 教授 仁木 久照

1. コース概要・学習内容

主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を各分野統合して学ぶことにより、医師として必要となる診療の基本を修得する。

(月)：ここでは教員は教えない。学生が自ら学習し問題を解決していく PBL(Problem Based Learning)を実施する。まず<仮想患者>の主訴が示される。それを基に 7-8 名のグループで討論し、鑑別診断や診療方針を打ち出していく。これまで学んだ基礎医学・臨床系統講義の知識を総動員し、仮想患者の病態を推測する。その過程で、自分たちの知識では解決できない問題点が挙げれば、それが学習課題となり討論の後に自ら勉強し解答を探し出す。臓器別の基礎臨床系統講義を縦糸とすると、横糸のような内容で、知識の整理に寄与するようなシナリオが用意されている。

(木)：7-8 名の小グループに分かれ、症候/病態に関連した 6 問程度の問題演習による TBL(Team Based Learning)を実施する。加えて、グループによる討論内容の発表を行い、担当教員による講評、問題演習の解説を行う。

2. 到達目標

- 1) <仮想患者>の主訴を教材にして、その症状、身体所見から診断・診察方法を導く方法を学ぶ。
- 2) 主な症候/病態の原因、分類、診断と治療の概要を発達、成長、加齢ならびに性別と関連づけて学ぶ。
- 3) グループ学習を通じて少人数グループでの討議法を学ぶ。

3. 学習上の注意点

- 1) 月曜日は<仮想患者>の主訴をもとに予習し、グループ学習時はタブレット端末、コンピューターを持参すること。
- 2) 木曜日は講義毎に、該当の症候/病態について、示した教科書・参考書をもとに予習すること。

4. 教科書・参考書

「内科学」(朝倉書店)

「内科診断学」(医学書院)

「標準外科学」(医学書院)

5. 成績評価

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	70 (%)	前期定期試験期間中に実施する。
授業態度	22	30 (%)	(月) 同僚評価を行う。出席しない者は0点。 (木) 教員によるグループ評価を行う。 多職種連携セミナーの評価を含む。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
整形外科	教授	仁木 久照	月曜日 17:00-18:00	整形外科教授室	h2niki

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略